

家 木心

人+自然=自然素材建築

NAPAS だより VOL. 12

ナチュラルパートナーズとご縁があった皆様に

弊社の最新の活動からスタッフの素顔まで様々な内容をお届けするお便りです。

お子様大歓迎！参加者募集中 ● NAPAS の家づくりワークショップ第一弾

土壁塗り体験会を開催します！

今回のテーマ

たけこまい したじく

あらかべぬ

竹小舞下地組みと荒壁塗り

お施主様のご厚意により、建築中の現場にて、伝統的な土壁づくりの工程を体験できるワークショップを開催します。今回体験いただくのは、竹を編む「竹小舞」と、鏝（こて）を使って泥を塗る「荒壁」の工程です。いつも弊社の左官工事をお願いしている、腕利きの職人さんたちが優しくレクチャーしますので、初めての方も安心してお楽しみいただけます。泥の感触を肌で感じ、住まいが形づくられていく様子を間近で見守る体験は、大人にとってもお子様にとっても特別なもの。ぜひ、ご家族皆様で遊びにいらしてください。

お申込み

事前予約制

ご予約は google フォームより受け付けています。

<https://forms.gle/p7zG9VnW2mQRxprG7>

応募締め切り：4月12日(日) ※定員に達し次第受付終了

お問い合わせ先：TEL 0561-74-0710 MAIL info@napas.jp



📅 令和8年
4月25日(土)
10時～12時

📍 名古屋市 中川区

詳細はご予約後にお知らせします

¥ 無料 P 有り

👕 よごれてもよい服装・靴



過去の体験会の様子

● 土壁塗り体験・内容の詳細

竹小舞下地組み

「竹小舞（たけこまい）下地組」とは、土壁の芯となる格子状の下地を作る伝統的な工程です。竹を縦横に格子状に組み合わせ、「藁縄（わらなわ）」で丁寧に編み上げていきます。この際、貫（ぬき）に竹を固定し、緊結させることで、土を塗るための強固な「面」が形成されます。



荒壁塗り

竹小舞（たけこまい）が組み上がると、次はいよいよ土壁の第一層目となる「荒壁塗り」の工程に入ります。荒壁に用いるのは、粘土質の土に細かく裁断した藁（わら）と水を混ぜ合わせたものです。藁の繊維が分解されることで土の粘りと強度が増し、乾燥時のひび割れを防ぐ強固な壁体となります。

職人が鏝（こて）を使い、竹小舞へと力強く塗りつける土は、厚い層となって優れた調湿・蓄熱性能を発揮します。夏は涼しく冬は暖かい、日本の風土に最適な室内環境を整えるこの工程は、まさに自然の恩恵と職人の技が融合する家づくりの醍醐味です。ご興味のある方はぜひご参加ください。

工事の記録 手刻み・土壁の家 建前を行いました

以前、大江が設計施工を担当したお宅のご家族から、新しい住まいのご依頼をいただきました。木の家のご縁がこうして次へとつながっていくことを嬉しく思います。今回の新築では、ナパスが長年大切にしてきた「手刻み」と「土壁」の技術をふんだんに取り入れています。建前に先立ち、お施主様と一緒に大工の作業場を訪ね、構造材の「刻み」を見学していただきました。三河産の木材を使い、大工が作業場で一本一本「墨付け(すみつけ)」を行い、ノミやカンナを手に「刻み」を進めていく。その過程を包み隠さずお見せできるのは、三河の木材と大工の確かな腕があるからこそです。完成すると隠れてしまう構造の部分まで、つくり手の顔が見える安心感をお届けしたいと考えています。

仕様について

近年の厳しい夏の暑さを考慮し、リフォームの現場で効果を実感し、好評をいただいている「屋根用遮熱シート」を、今回の新築でも採用しています。さらに、断熱材にはドイツ製の木質繊維断熱材「シュタイコ(厚み60mm)」を採用。壁については、「土壁」をベースに、その外側か



らの木質断熱材を張ることで、調湿性能と断熱性能を両立させています。

工事の進捗とこれから

2月に行われた地鎮祭は、しんと雪が降る中でのスタートでした。それから季節は移り、建前の当日は抜けるような青空に恵まれました。

建前の1日目で、建物の骨組みから屋根の垂木(たるき)までを一気に組み上げ、2日目には無事に上棟式を執り行うことができました。

4月半ばの現在は、左官職人による「竹小舞(たけこまい)」の組み付け作業が進んでいます。格子状に組まれた竹の美しさは、土を塗る前の今しか見られない特別な風景です。一步一步進んでいく現場の工程を大切に、職人とともに心

工事の記録 尾張旭市 多度神社 本殿の建て替え工事がスタート



現場となる神社は、緑豊かな山の頂き近くに静かに佇んでいます。普段は木々のざわめきや鳥のさえずりが聞こえる穏やかな場所ですが、年末年始には多くの参拝客で賑わいを見せます。その歴史は古く、康安元年(1361年)に建立され、延宝9年(1681年)の再建を経て、大正9年(1920年)に現在の本殿へと改築されたと伝えられています(※諸説あり)。

主祭神として祀られているのは、農業や海難防止、産業の神様として信仰のあつい「天津彦根命(あまつひこねのみこと)」です。雨の少ない年には、この場所で雨乞いの儀式も行われていたのだとか。現在でも地元の方々に親しまれており、秋の祭礼では貴重な文化財である「棒の手」や「馬の塔」が奉納され、地域の伝統が大切に受け継がれています。

そんな長きにわたり地域を見守ってくださった御本殿ですが、築百余年を経て、柱や高欄の傷みが少しずつ目立

つようになっており、「大規模修繕にするべきか、それとも建て直すべきか」。検討を重ねられた結果、この度、本殿を建て替える運びとなりました。本殿の解体・新築工事にあたり、神様に一時的にお住まいいただく「仮殿(かりでん)」を製作しました。現場をまとめる棟梁は、薬師寺の再建にも携わった経験を持つ藤井大工です。3月半ばには、いよいよ工事に取り掛かるため、神様を現在の本殿から仮殿へと移っていただく「遷座(せんざ)」の儀式が執り行われました。神様のお引越は、白い布で周りを囲い、姿が見えないように配慮しながら厳かに進められます。儀式を行えるのは宮司様や氏子総代の皆様のみのため、弊社の社員や見学に訪れた近隣の方々、取材に来られた地元のテレビ局の方などは、少し離れた外側から静かに見守らせていただきました。

いよいよ本格的な工事が始まってまいります。次回の

ニュースレターでは、足場組みから本殿解体の様子をお届けする予定です。

どうぞ楽しみに!



編集後記

創刊以来、毎月月中旬のお届けを続けてきましたが、今月号は一ヶ月ほど遅れての発行となりました。現場のことや日々の気づきを、これからもこつこつとお伝えしていきますので、引き続き気軽にお手に取っていただくと嬉しいです。朝晩はまだ冷える日もありますが、皆さまどうぞご愛ください。 池田

Instagram
積極更新中!



QRコードを読み込むと
投稿が見られます

お問い合わせはお気軽にお電話、メール
LINEより受付しております。



LINE 友達追加
はこちらから
LINE ID: 711codzc



編集・発行



Natural Partners

〒470-0121 愛知県日進市本郷町前川 1243-9
TEL:0561-74-0710 FAX:0561-74-0769

